

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	27 / 2010 / 48-51
タイトル	2009 年のグダリ沼植物写真撮影後記
著 者 名	石郷岡總一郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

2009年のグダリ沼植物写真撮影後記

第 25 代 石郷岡總一郎

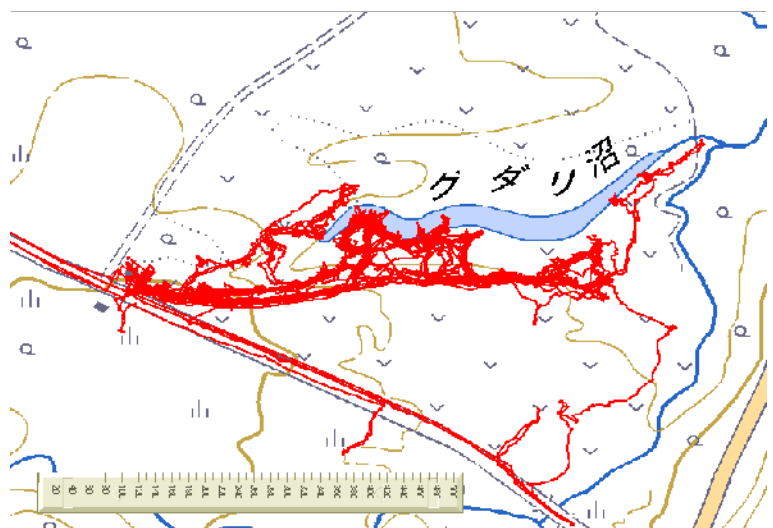
「グダリ沼」という名前を初めて聞いたのは、現役生物部員の頃だったと記憶しています。長い間興味を持ちながら訪問する機会が有りませんでした。2009年のやぶなべ会重点調査対象地になったのが契機となり、5月から10月までの間にほぼ隔週毎の12回訪れることができました。訪問の主たる目的は、植物及び周辺状況の写真撮影でした。この約半年間の体験を記録にまとめます。

まず、撮影時に使った補助機器について触れておきます。グダリ沼周辺での活動中は簡易GPS記録装置を持参して、行動過程と写真の位置情報の記録を取ることにしました。今回撮影したオリジナル写真には撮影位置情報(経度及び緯度、但し誤差有り)が埋め込まれています。元々デジタル写真には時刻は最初から埋め込まれています。後々のための記録としての価値が有る程度向上したものと思います。ただ、GPS機器操作を間違ったため、一部の写真はこの情報が欠落しているものも有ります。

図1はその行程軌跡を合成したものです。GPS機器自体の精度と状況によっては精度が落ちる仕組み(空が覆われた林下などでは顕著)のため、最大で10m程度の誤差が含まれています。図上ではグダリ沼の湖水上にも軌跡が有りますが、沼の中には入っていません。軌跡図をご覧になると実際に私が行動した行動範囲が分かるでしょう。グダリ沼南岸部の西側～中央部が中心で、西側の一部・南岸中央部の岸付近・北岸側の大半には足を踏み入れています。これらの場所は、灌木や樹林に空が遮られています。諸般の事情で現地に滞在できる時間に制限が有り、移動が容易な草地地帯や踏み分け道を使った行動が多くなりました。そのため、林下などの日陰地に生育する植物の写真はあまり撮影できませんでした。また、北岸部の訪問回数も少なくなっています。

半年間を通しての全体的な印象をまとめると、グダリ沼周辺では黄色い花が非常に目に付いた記憶が有ります。数が多く見られたウマノアシガタ・ハナニガナ・オクノミズギク・オトギリソウ・ハンゴンソウなどの他にミツバツチグリ・オオダイコンソウ・キンミズヒキなども黄色の花です。8月中頃までは何かしらの黄花が咲いていました。他に、エゾズミ・ノイバラの白、レンゲツツジ・コオニユリのオレンジ色が季節季節の彩りを与えていました。

同地での季節感はハッキリしていたと思います。初春の頃(5月初め)は、残雪とミズバショウ程度しか目に付きませんでした。春(5月下旬頃～6月頃)は様々な花が咲き誇っていました。草本類は一般的に背の低いものが多かったです。この頃の「黄色い花」の印象が強く残っています。夏(7月～8月頃)になると



[図1] 赤線はグダリ沼周辺撮影の歩行軌跡



[写真1] グダリ沼南岸東部の湿地帯。周りよりも一段低くなっている。木立の手前を駒込川が流れ、写真左端の先でグダリ沼が合流する(7月5日)



[写真2] グダリ沼南岸東部の湿地帯。9月20日の時点で、まだヨツバヒヨドリの花が多数咲いていた



[写真3] 同日のグダリ沼中央部。ヨツバヒヨドリは、西部～中央部では既に枯れはじめていて、花は見られなかった

その高い草本が増えて、見通しが悪くなってきました。それまで使っていた踏み分け道が歩行困難になり、迂回した地域も有ります。これが8月を過ぎると、ススキが繁茂し、目立つ色の植物が少なくなつて劇的な色彩の変化が見られ、いきなり秋になった印象を受けました。

今回、グダリ沼周辺の植物を見て気づいた点を一つ記録しておきます。グダリ沼は東西に約500m程度の距離が有りますが、その南岸域では西側～中央部と東側で花の開花期に差が見られるようです。図1の中程の軌跡が多く重なっている辺り、西側から中央付近にかけてはなだらかな高低差でやや乾いた環境です。一方、中央部から東側に向かっては西側に比べてやや急速に低くなり、駒込川近くでは湿地帯が広がっています。駒込川を挟んでの対岸は高くなっているの、その湿原地帯はやや盆地状の地形になっています。ヨツバヒヨドリの花を観察していて気づいたのですが、西側での開花後1～2週間遅れで東側が開花しだしていました。また、西側～中央部で枯れた個体が多くなった時期に東側で盛りのピークを迎えていたようです。(写真2、3参照。ただし、ピークの時期ではない。)ヨツバヒヨドリ程顕著では有りませんが、ハンゴンソウなどでも同様な差を感じました。詳しい状況を確認していないので全くの推定になりますが、東側は雪が貯まりそうな地形なので雪解け時期の差が影響しているのか、ヤマセなどの風の影響が有るのか、乾燥の状態が影響しているのか、と想定しています。今後機会を見つけて雪解け状況などを確認してみたいと思っています。

次に、印象に残っている植物を幾つか個別に取り上げてみます。良く目に付いたものが中心で、概ね季節に沿って並べてみました。同地を訪れた際の参考になるかも知れません。なお、個々の植物の写真は別掲の写真集(31～45頁)を参照して下さい。また、種名の後に「(X:Y)」と有るのは、写真集の「X 頁:写真 Y」の意味です。

◆ミズバショウ(36:24) 5月4日、土地勘や現地の状況など全く予備知識無しで最初の訪問を行った。まだ緑色の少ない現地、まず目に付いたのはミズバショウで有った。近づいてみると白色の総苞の先が黒変した個体が多かった。訪問の数日前に季節はずれの大雪が有り、その影響かもしれない。5月下旬にはもう見られなかった。

- ◆エゾズミ(38:40) 5月下旬から6月中旬に見られた。盛りは6月上旬頃。沼岸より数～十数m程度離れた場所に多い。盛りの時期は全木花に覆われる感じになるが、実のつきは良くないのか8月末頃にごく少数のみの撮影できた。
- ◆レンゲツツジ(38:41) 田代平を代表する花木。6月の「田代平ツツジ祭」の頃が盛り。その頃はグダリ沼周辺がオレンジ色に彩られていた。5月下旬頃には蕾をつけだし、遅いものは7月初めまで花をつけていた。
- ◆オランダガラシ(39:45) 5月下旬頃～9月中旬頃まで花が見られた。部誌「やぶなべ」(第30号、1987)によると年により変動が有るようだが、2009年は沼岸近くに点々と生えているのみで、バイカモなどに比べて小さな群落しか見られなかった。
- ◆ウマノアシガタ(38:39) 花期は5月末頃～7月初め頃。盛りは6月中頃で、何れ所か大きな群落をつくっていた。
- ◆オオヤマフスマ(38:38) 6月上旬頃から咲き始めた。草丈が低く、他の植物の陰になって目立たないが、草原地帯全体に多数が生えていた。盛りは6月いっぱいだったが、9月初め頃まで少数が花をつけていた。
- ◆ハナニガナ(40:61)・ニガナ(40:59)・シロバナニガナ(40:60) 6月中旬から咲き出し、遅いものは9月中旬にも少数見られた。盛りの6月下旬頃は、草原地帯全体を覆うように多数が花をつけていた。ざっと見た限り殆どはハナニガナであった。その中にごく少数のニガナも交じって生えていた。グダリ沼南岸中程の岸に比較的近い場所に、シロバナニガナが2～3株まとまって生えていたが、他所では見ていない。
- ◆ノイバラ(41:66)・ウスアカノイバラ(41:66) 花期は6月下旬～7月上旬。グダリ沼周辺のあちこちで白い花をつける。草地の中にも点々と生えているので、遠くからでも目立つ。やぶなべ会員からの情報で、赤味を帯びた花をつけるウスアカノイバラも有ることを聞き、数株程見つけることが出来た。グダリ沼南岸の一部にノイバラの茂みが有り、棘に阻まれ沼岸への到達を断念した事も有った。実のつきは良く、9月いっぱいの期間多数の赤い実が見られた。
- ◆バイカモ(44:94) グダリ沼を代表する花として観光案内などで紹介されている。6月下旬頃に花をつけだした。8月に入るとグダリ沼西部の多くの水面がバイカモの花で覆われたようになる。次々と新しい花をつけていくので長期間観察できる。10月中旬でも数多く咲いていた。
- ◆ヒカゲノカズラ(41:64) 7月上旬頃から孢子葉が見られた。グダリ沼周辺の広い地域で点々と生えていた。
- ◆オオタカネバラ(40:53) 花期は7月下旬～8月上旬。グダリ沼北岸の崖下の沼岸に近い場所にある。やぶなべ会がグダリ沼調査を行うきっかけになった植物の一種である。近づくためには沼を横断しなければならない。装備などの都合でやむを得ず対岸から望遠レンズを使って撮影したが、質の良い写真は撮れなかった。本誌掲載の拡大写真は五十嵐正俊氏提供である。
- ◆オクノミズギク(43:90) 花期は6月末頃～8月末頃で盛りは8月上中旬。比較的沼岸に近い場所や湿地に多い。膝下程度の草丈でやや大振りの黄色い花が目につきやすい。
- ◆オトギリソウ(39:50) 7月頃から咲き出す。草原地帯のあちこちで数多く見かけた。9月の初め頃まで花をつけている個体があった。9月下旬頃には実をつけていた。立ち枯れて冬をこしたものが春先にも見られた。
- ◆ヨツバヒヨドリ(45:110) 7月初め頃から花をつけだし、9月まで見る事が出来た。グダリ沼周辺の花期の東西差を気づかせてくれた植物である。

- ◆ハンゴンソウ(45:109) 花期は8月初旬～9月中旬頃。盛りは8月中旬頃。背が高いので目立つ。広い範囲に生え、数も多かった。一部の地域では大群落を形成していた。よく似た花をつけるオオアキノキリンソウ(44:117)も同じ頃見られたが、沼岸近くの樹林下に少数生えていたのみであった。
- ◆タチアザミ(43:91) 7月の終わり頃～8月下旬頃に花をつけていた。盛りは8月中旬頃。茎はこれより2～3週間前に背丈程に生長していた。
- ◆アオモリアザミ(47:124) 8月初め頃から咲き出し、盛りは8月下旬以降。概ねタチアザミと入れ替わるように花の盛りを迎えていた。
- ◆タチギボウシ(44:93) 花期は7月中旬～8月中旬。比較的湿度の高い場所に多かった。グダリ沼から200m程南の場所で、ミズギクと共に大きな群落をつくっていた。
- ◆スギナモ(43:84) 青森県ではグダリ沼特産の植物。7月下旬頃から水面上に一部を伸ばしだしていた。岸から離れた場所に多く、近接しての撮影は出来なかった。本会報に掲載されてる花の拡大写真は、採集したスギナモを五十嵐正俊氏が撮影したものである。
- ◆ヤナギラン(43:83) グダリ沼周辺では南岸東部の一部で見られた。花期は7月下旬頃。南西方向に少し離れた群生地では、保護のためとロープが張られていた。この時の同行者の話では、「このような事をするより、野焼きして環境を整えた方が余程良い」との事であった。
- ◆コオニユリ(44:92) 花期は8月上旬頃。この頃にオレンジ色の花をつける植物は他にない。草丈も有り、大きな群落をつくっているの、遠くからでもよく目立つ。
- ◆オオバセンキュウ(44:97) 花期は8月上旬頃～8月下旬頃。沼岸や湿地帯に多い。グダリ沼南岸東側の湿地帯などでは、一面を埋め尽くすような大群落になっていた。
- ◆ノコギリソウ(45:102) 花期は8月上旬～9月中旬頃まで。数ヶ所のみであったが、まとまって生えていた。風当たりが強そうな陽光地では草丈が低かったが、ノイバラの茂みの側で1m四方形密生していた場所もあった。そこでは陽光地の二倍程度背も高くなっていた。
- ◆ススキ(47:125) 8月中旬以降に穂が見られた。8月中旬のお盆時期を境に、グダリ沼周辺の景観が大きく変わった印象を受けた。それまでの色鮮やかな景観が茶系に一変していた。おそらく多くのススキの色がその様な印象を与えたのであろう。また、この頃から夏に多く見られた花も姿を消していき、グダリ沼周辺は秋の気配が大きくなっていった。
- ◆ノコンギク(47:128) 花期は8月中旬～9月中旬で、10月中旬にも少数見られた。大きな群落をつくっていた場所が何カ所もあった。
- ◆ミズナラ(42:75) 9月中旬に果実(ドングリ)のみ撮影できた。その日は風が強く、果実の落下が盛んで、何度か直撃を受けた。花期の頃に殆ど注意を払っていなかったため、花の写真は撮れなかった。
- ◆イネ科・カヤツリグサ科の植物： これらは私が最も不得手とするグループである。資料を見るとたくさん種があったはずだ。また、グダリ沼周辺は牧野として使われていたため、それらが生える被覆面積も広い。撮影できたのは、ハルガヤ(37:31)などごく少数である。今後の課題としたい。